

人文学部卒業研究

瀬戸焼の現状と課題：食生活の影響に着目して

題 目

指導教授

栗木千恵子

印

提出年月日

2018年 12月 17日

学籍番号

HI15033

氏 名

鈴木来良

瀬戸焼の現状と課題：食生活の影響に着目して

HI15033 鈴木 来良

要旨

本論の目的は、陶磁器産業に関する問題を分析し、衰退原因を明らかにするとともに、これからの陶磁器産業の発展を考えていくことである。これまで陶磁器産業に関する問題を扱った研究では、担い手の高齢化や後継者の不足、瀬戸焼(せともの)のイメージ低下、セト・ノベルティ需要の低下などが論じられている。しかし私は、従来とは異なる生活スタイルの変化も影響しているのではないかと考えている。そこで本論では、「食生活」に焦点を絞り、焼き物を発展させるための手段を分析・考察を試みることにした。

本論の構成は以下の通りである。第1章では、多くの時間と労力を必要とすることが衰退原因のひとつとして挙げられているため、陶器と磁器の作られ方とその特徴をまとめた。第2章では、瀬戸焼の歴史を平安時代から昭和時代までをまとめ、現在の瀬戸焼の状況を整理した。目についてのは、プラスチック製食器の普及で焼き物の存在が稀薄になっている状況であった。食器を使わずとも手軽に食べられるようになったことが大きな原因だと考える。しかし、近年になって人体への影響が危惧され、使用を禁止する動きが出てきている。「食の安全性」というのは大きな問題であると思うが、私はこの問題を焼き物の価値を高める最大のチャンスだとも考えている。

結論として、観光客への配慮や担い手を支援できる環境を整え、焼き物の良さを知ってもらうためにSNSを積極的に利用し、「食の安全性」の解決策として焼き物を宣伝するなどが必要である。日本の文化は焼き物を通して発展してきた国である。長く共に暮らしてきた焼き物を歴史の片隅に追いやることだけは何としても避けねばならない。より陶磁器を発展させるには、担い手と消費者側共にこの現状に目を向けなければならない。

キーワード

瀬戸焼 陶磁器産業 食の安全性 プラスチックトレイ製品 釉薬

目次

序論	1
1. 瀬戸焼(せともの)とは	2
2. やきものの作られ方 陶器・磁器の種類、特徴	3
2-1 焼き物はどのようにして作られているのか	3
2-2 陶器の作られ方とその特徴	4
2-3 磁器の作られ方とその特徴	4
3. 瀬戸の歴史、過去の出来事	5
3-1 瀬戸焼の歴史	5
3-2 瀬戸焼の現状	6
3-3 これまで行われてきた取り組み・イベント	7
3-4 祖父へのインタビュー	10
4. 食の安全性	11
4-1 プラスチックの普及による陶磁器の需要低迷	11
4-2 陶磁器の安全性	12
5. 課題、問題点	13
5-1 課題	13
5-2 せともの=一般食器というイメージ	14
5-3 消費者ニーズを把握する	14
5-4 年々職人の高齢化、後継者不足が増加している	15
5-5 学生・研修生の状況	15
5-6 学生・研修生のその後の就職状況と雇用状況	15
5-7 観光客や訪問客への配慮	16
6. 結論	16
参考文献	18
参考サイト	19